

発達段階

小学生の6年間における発達は目覚ましいものがある。発達段階としては、下記の3段階に分かれる。

1. 身体性の発達(1～2年生頃)
2. 関係性の発達(3～4年生頃)
3. 抽象性の発達(5～6年生頃)

性の課題

小学生時期に表出する性の課題(と大人が思うもの含む)の主なものを記す。

児童ポルノ被害
性虐待
(性器いじり)
性的いたづら(言動含む)
性被害
二次性徴のセルフケア
“性と心”への対応
性交等の性行為

臨床の観点

個別指導・個別支援

小学生における性の課題をみると、早期発見と予防が重要であることがわかる。ただし、発達段階からみると、特に低学年では身の上に生じた事柄を適確に言語化できるとは限らない。また、その言語化に必要な知識の習得もなされていないことも多い。個別指導においては、多職種連携のもと対象児童とのやりとり(聞き取りなど)を進める。

集団指導・小集団指導

対象児童の知識の有無にこだわることはない。知識を合理的に(予防)行動に結びつけていくという「知識モデル」は近代教育の正統(レガシー)ではあるが、予防という抽象度の高い概念が育つのは高学年を待たねばならないし、さらには高学年であったとしてもこの「知識モデル」が有効に機能するための知識運用能力(いわゆる学力)が皆育っているとも限らないからである。

ゆえに自分を守るための行動をわかりやすく図示し(イラストや動画など)、場合によっては実際の練習(ロールプレイ等)も取り入れながら、「知識モデル」にこだわらないかたちの性教育を展開することになる。

「知識モデル」は学校教育の中で主として保健の授業で展開されている。

学校では何が教えられているか

小学校の保健の授業は3年生から始まる。その保健の授業で性が扱われるのは、10歳前後の4年生からである。下記は学習指導要領(平成29年告示)からの抜粋である。

【4年生の保健の授業】

- 体の発育・発達について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア) 体の発育・発達について理解すること。
 - イ) 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。

ただし、これらについては、自分と他の人では発育・発達などに違いがあることに気付き、それらを肯定的に受け止めることが大切であることについて触れる。

【5年生の保健の授業】

- 心の健康について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア) 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすること。
 - ・心は、いろいろな生活経験を通して、年齢に伴って発達すること。
 - ・不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。

【6年生の保健の授業】

- 病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア) 病気の予防について理解できるようにすること。
 - イ) 病原体が主要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。

小学校5・6年生では、自らの心身の成長に伴う性の戸惑いへの現実的な対処方法の探索をはじめとして、中学校における性感染症の学習や、何よりも助けを求める力を養成するための基礎となるところである。助けを求める力は、思春期の子どもにとっても重要な力であると近年認識されてきている。このヘルプ・シーキングには性差がある。女子に親和性があるのが「身近な人」への相談であるのに対し、男子においては「身近な人」への相談が忌避される傾向にある。ゆえに、男子の場合、知らない人への相談を可能にする情報を提供が重要となる。

【参考文献】

1. 松浦賢長(編著):ワークシートからはじめる特別支援教育のための性教育. ジアース教育新社(東京), 2018.
2. 荒堀憲二, 松浦賢長(編著):性教育学. 朝倉書店(東京), 2012.
3. 文部科学省:小学校学習指導要領(平成29年告示), 2017.